



神奈川県

福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

令和7年度

神奈川県認知症施策活動事例集

～認知症地域支援推進員の活動支援のために～

神奈川県

はじめに

超高齢社会が到来し、認知症の人の数の増加がさらに見込まれる中、令和6年1月に、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。

さらに同年12月には、国の認知症施策推進基本計画が策定され、「新しい認知症観」に基づき施策を推進することが求められました。

認知症基本法は、認知症の人を含めた国民一人一人が、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある共生社会の実現を推進することを目的としています。

第9期の「かながわ高齢者保健福祉計画」（令和6年度～令和8年度）では、認知症基本法を踏まえ、認知症に関する正しい知識と、正しい理解を深め、共生社会の実現に向けた取組を進めていくことを目標としました。

本県では引き続き、誰もが認知症になりうるという考えのもと、認知症の人自らが認知症理解のために行う「本人発信」への支援など、誰もがともに生きる、共生社会へ向けた認知症施策を進めていきます。

これまで県では、平成27年度から認知症地域支援推進員研修を開始するとともに、活動の参考としていただけるよう、県内市町村や県保健福祉事務所・センターにおける取組をまとめた事例集を作成してきました。

お忙しい中、原稿作成にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げますとともに、好事例等、実際の取組を参考にいただき、各地域で、共生社会の実現に向け、さらなる認知症施策の推進に活用していただきますようお願いいたします。

令和8年3月 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

神奈川県認知症の人と
家族を支えるマークと
かながわキンタロウ



利用にあたって

- (1) 相談窓口等情報は、令和7年度に把握した情報をまとめたものです。
- (2) この事例集は、神奈川県高齢福祉課のホームページでダウンロードすることができます。
- (3) お気づきの点がありましたら、下記まで御連絡ください。

連絡先 〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1
神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課高齢福祉グループ
電 話 045-210-4846 (直通)
メール anshinkaigo@pref.kanagawa.lg.jp

～目次～

はじめに	1ページ
利用にあたって	2ページ
目次	3ページ
1 特集	4～8ページ
2 各市町村における認知症施策の取組	9～44ページ
3 各保健福祉事務所・センターにおける認知症施策の取組	45～50ページ
4 認知症地域支援推進員研修及び県内配置状況	51～52ページ

【巻末】

- お電話ください認知症のあれこれ
- もしかして若年性認知症?? 記憶に不安を感じたら

1 特集

県で実施している、認知症施策の取組について、ご紹介します。

- (1) かながわオレンジ大使について 5ページ
- (2) チームオレンジ・オレンジパートナーについて 6～7ページ
- (3) 認知症未病改善キャラバンについて 8ページ

その他の取組については、
「かながわ認知症ポータルサイト」
をご覧ください！



神奈川県認知症の人と
家族を支えるマークと
かながわキンタロウ



「かながわ認知症ポータルサイト」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u6s/cnt/f6401/index.html>

(1) かながわオレンジ大使について

「かながわオレンジ大使」(認知症本人大使)が活動しています！

多くの県民の皆様へ、認知症について理解していただくため、認知症の方ご本人が思いを直接伝え、その人らしい活動を発信する「かながわオレンジ大使」(認知症本人大使)を委嘱しています。

現在は15名の大使が活動を行っています。

かながわオレンジ大使の皆様は、市町村等からの依頼による講演活動や研修会の講師、認知症に関する会議への参加、テレビやラジオ、動画への出演、大使の作品展示等など、ご本人の希望や体調に合わせ、参加・協力が可能な方法で様々な発信を行っています。今年度は、県内各地から50件以上の依頼があり、活動をしていただきました。



<大使の講演等を聞いた方からのコメント(アンケート抜粋)>

- 本で読んだりして知っていたつもりだが、より実感した感じです。
- 本人の気持ちの確認が大切だと、あらためて認識できました！
- 個人個人の病気の捉え方によって、人生は変わるのだなと思いました。



かながわオレンジ大使の活動の様子を発信中！



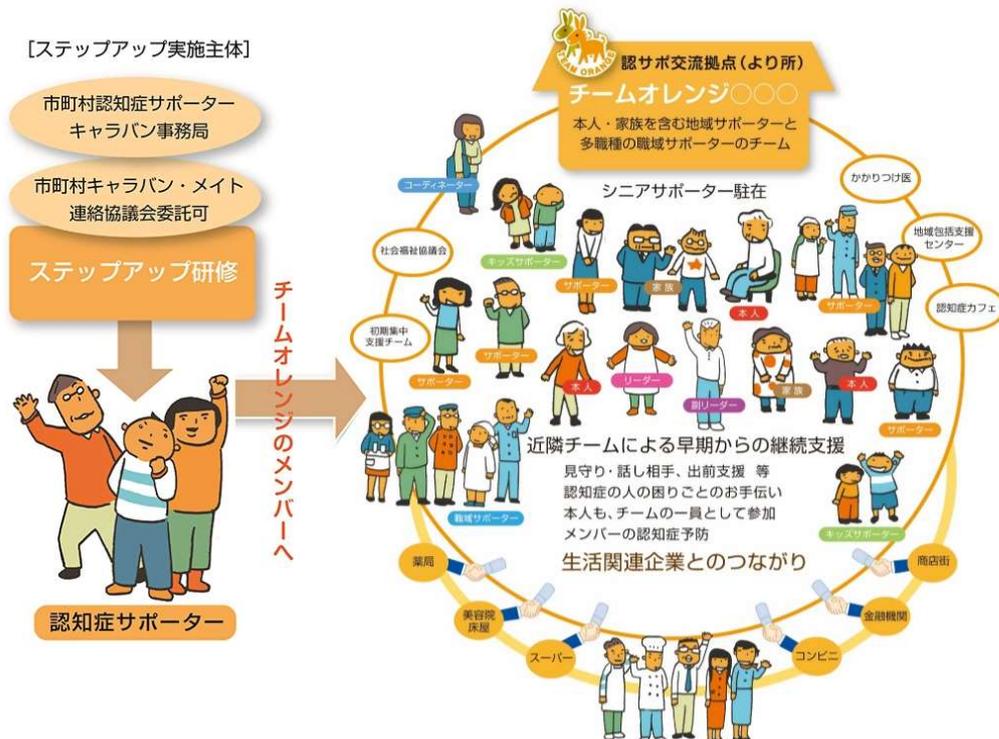
(2) チームオレンジ・オレンジパートナーについて

○チームオレンジについて

認知症サポーターから一歩進んで、それぞれの地域でボランティア活動を行うサポーターが誕生しています。

認知症の人や家族の支援ニーズと、こうした認知症サポーターを中心とした支援をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの活動が「チームオレンジ」です。

令和7年12月1日現在の設置状況調査結果は、44 ページ記載のとおりです。



(図) 認知症サポーターキャラバンホームページ「チームオレンジとは」

○オレンジパートナーとオレンジパートナーネットワーク

企業、行政、支援団体、個人の支援者等がネットワークを構築し、認知症の方やそのご家族を支援します。

認知症オレンジパートナーネットワークウェブサイトを通じてご登録いただいた方を「オレンジパートナー」と呼んでいます。

令和5年3月にオレンジパートナーネットワークウェブサイトがリニューアルしましたので、ぜひご活用ください。



認知症オレンジパートナーネットワークウェブサイト

<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1393/orangepartner/index.html>



○令和7年度に実施した県の取組

・チームオレンジ見学会

他の市町村のチームオレンジの取組を実際に見学したうえで意見交換を行うことで、さらなるチームオレンジの取組の活性化を図ることを目的に開催。

・チームオレンジ意見交換会（＜第1回＞令和7年10月31日（金）、かながわ県民センター、＜第2回＞令和8年2月13日（金）、かながわ県民センター）

チームオレンジ設置後の取組の活性化を図るとともに、他の市町村での支援方法を参考とし、チームオレンジ同士が様々な情報を交換することを目的に開催。

・オレンジパートナーネットワークウェブサイトの運営

令和4年度にリニューアル。個人の支援者と、ボランティア活動の場のマッチングを行うほか、認知症ご本人の新たな就労先や活動場所を探すことを目的に開設。

【（公社）認知症の人と家族の会 神奈川県支部に委託】

・オレンジパートナー等の活動支援

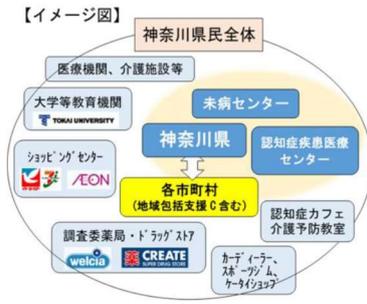
オレンジパートナー等の登録、支援団体の募集情報等の発信やマッチングなど活動を支援する。

・チームオレンジコーディネーター等研修（令和7年7月7日（月）、万国橋会議センター）

チームオレンジの立ち上げや運営支援等を担うコーディネーター等を対象とする研修を実施することで、市町村におけるチームオレンジの整備を支援し、大綱に掲げる「共生」の地域づくりを推進する。

(3) 認知症未病改善キャラバンについて

認知症 未病改善



認知機能評価ツールや、有効な介入モデルを紹介・体験できる機材等を搭載した車両で、県内各地を巡回訪問等することにより、認知症未病改善を促進、PRしています。



<大使コンサート>



<大使とのコラージュワークショップ>



<大使講演>

今年度は、未病指標や、ME-BYO BRAND 認定の「脳体カトレーナー『CogEvo®』」や『ベジチェック®』、『血管美人』、認知症に一定の効果があるとされるeスポーツの体験ができる機材等を搭載した車両で、県内すべての自治体（33 市町村）のイベント会場やショッピングセンター等を 60 力所以上巡回訪問する予定です。



<脳体カトレーナーCogEvo®体験>



<ベジチェック®体験>



<eスポーツ体験>

2 各市町村における認知症施策の取組

神奈川県内 33 市町村では、地域特性に合わせて認知症についてさまざまな取組を実施しています。

次のページから各市町村の情報と取組や工夫等を掲載していますので、「推進員」の活動を展開していくための参考にしてください。担当課や連絡先も記載してありますので、「もっと知りたい！もっと聞きたい！」という場合は、アクセスしてみてください。

*市町村の順番は建制順になっています。

*以下のように省略して記載しています。

- 地域包括支援センター → 地域包括
- 認知症地域支援推進員 → 推進員
- 社会福祉協議会 → 社協
- 認知症キャラバン・メイト → メイト
- 認知症サポーター養成講座 → サポーター養成講座

市町村名	ページ番号	市町村名	ページ番号
横浜市	10	南足柄市	28
川崎市	11	綾瀬市	29
相模原市	12	葉山町	30
横須賀市	13	寒川町	31
平塚市	15	大磯町	32
鎌倉市	16	二宮町	33
藤沢市	17	中井町	34
小田原市	18	大井町	35
茅ヶ崎市	19	松田町	36
逗子市	20	山北町	37
三浦市	21	開成町	38
秦野市	22	箱根町	39
厚木市	23	真鶴町	40
大和市	24	湯河原町	41
伊勢原市	25	愛川町	42
海老名市	26	清川村	43
座間市	27		

市町村名	横浜市	
テーマ	横浜市認知症施策推進計画	
自治体の 情報	人口（令和7年9月1日現在）	3,755,248人
	65歳以上人口（高齢化率）	946,577人（25.2%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	560,457人（59.2%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成24年度から 人数：6 職種：社会福祉士、精神保健福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：18 設置場所：医療機関
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成 名称：横浜市版オレンジガイド 活用方法：区役所、地域ケアプラザ（※横浜市独自施設）、 認知症疾患医療センター等で配布、サポーター養成講座 で資料として配布
	認知症カフェの開設	平成27年度から開設 カフェ数：122
	認知症予防の取組	取組内容：講座等の開催、啓発、もの忘れ検診の実施等
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和4年度から） ②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市認知症施策検討会の開催：医療・福祉・保健・認知症当事者等からなる検討会の開催。 チームオレンジの取組推進：147か所の地域ケアプラザで実施する活動への支援。 認知症カフェ活動支援：運営者などに向けた研修会の開催や情報発信する際のツールとしてのクリアファイルの作成・配布。 若年性認知症に関する取組推進：若年性認知症支援コーディネーターと連携し、活動への支援の実施。 ケアパスの普及啓発：内容を充実させた更新版ケアパスの関係機関等への配布や研修会での配布。 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> 本市では、認知症カフェをはじめとした地域活動が盛んに行われているため、それらの地域活動を活かして取り組んでいる。 チームオレンジの取組把握 チームオレンジ事業説明、取組報告会を開催。 各区でも関係機関の集まる連絡会や会議等において、チームオレンジの事例報告等を実施し、取組を共有している。 	
担当課名	高齢在宅支援課 電話：045-671-4129	

市町村名	川崎市	
テーマ	「自分らしく暮らせるまち」に向けて	
自治体の情報	人口（令和6年12月1日現在）	1,551,788人
	65歳以上人口（高齢化率）	320,117人（20.6%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	182,175人（56.9%）
	認知症地域支援推進員の配置	令和4年度から 人数：9 職種：介護福祉士・保健師・看護師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：7 設置場所：各区役所 高齢・障害課
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成25年度から実施（フォローアップ研修として実施）
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：認知症アクションガイドブック 活用方法：区役所、地域包括、認知症疾患医療センターなどで、認知症と診断された方や、そのご家族等を対象に配布。
	認知症カフェの開設	平成27年度から実態把握 カフェ数：91
	認知症予防の取組	取組内容：タブレットを使用したMCIスクリーニング事業
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和4年度から）
認知症に係る主な取組（推進員活動含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー月間：「自分らしく暮らせるまち～認知症の日 in かわさき～」を開催。各区役所・図書館でパネル展示や認知症特集コーナーでの本紹介での普及啓発。本庁舎のオレンジライトアップを実施。 ・MCIスクリーニング事業「アタマとカラダの健康チャレンジ」を42か所で実施。 ・サポーター養成講座、フォローアップ講座の実施。 ・区役所等で、認知症当事者による講演会の実施。 ・推進員：認知症初期集中支援チームのチーム員として、対象者への後方支援（地域資源の情報提供）、認知症カフェ等の情報収集、「チームオレンジ」の立ち上げや運営支援。 ・若年性認知症に関する取組：若年性認知症本人のつどい・家族のつどいの定例開催、若年性認知症地域支援推進員を設置し、若年性認知症の本人による普及啓発活動の支援や企業と連携した取組の実施。 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ研修や交流会を通じて、認知症サポーターの地域活動への参加やチームオレンジにつながる活動への動機づけを行っている。 ・ステップアップ研修のオリジナルテキストを作成し、ステップアップ研修に活用するとともに、今後活動を予定している団体に対しての説明や研修等で活用している。 ・市民にチームオレンジの存在を広く周知できるよう、広報の工夫について検討を進めている。 	
担当課名	健康福祉局地域包括ケア推進室 電話：044-200-2470	

市町村名	相模原市	
テーマ	みんなで支えあい 認知症とともに暮らせるまち さがみはら	
自治体の情報	人口（令和7年10月1日現在）	714,888人
	65歳以上人口（高齢化率）	191,580人（26.8%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	114,349人（59.7%）
	認知症地域支援推進員の配置	令和3年度から 人数：32 職種：保健師、看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員、精神保健福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：行政
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和6年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成28年度作成 名称：もの忘れ安心ガイドブック 活用方法：相談初期の説明用として使用
	認知症カフェの開設	平成25年度から開設 カフェ数：53
	認知症予防の取組	取組内容：介護予防教室
チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和6年度から） ②設置済み（令和6年度から）	
認知症に係る主な取組（推進員活動含む）	<ul style="list-style-type: none"> 認知症への理解を深めるための普及啓発と認知症のある人からの発信支援の推進（認知症サポーターの養成、認知症の日、月間の普及啓発イベント等） 医療、ケア、介護サービス、介護者への支援（認知症疾患医療センターの支援体制の充実、認知症初期集中支援チームの活動の推進、医療、介護従事者等の認知症対応力向上の促進等） 若年性認知症のある人への支援、社会参加支援、認知症の備え、認知症バリアフリーの推進（若年性認知症のある人の相談、就労、社会参加、家族との交流会の推進、チームオレンジによる地域づくりの推進、認知症カフェ等の「通い（集い）の場」の拡充等 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> 市内の個人、団体、企業等すべての人を対象に登録制度を設けることで、チームオレンジの第1～3の類型を複合した体制としている。 日常生活支援を図るチームオレンジを推進するため、新たな活動拠点となるオレンジサポートセンターを開設した。 チームオレンジサポートセンターでは、市域全体のチームオレンジを推進する拠点としてコーディネーターを配置し、マッチングをするほか、認知症のある人や家族がいつでも訪れられる居場所づくり、本人ミーティング、相談会、多世代交流するイベント等を開催 	
	<p>チームオレンジに登録した方にオリジナルオレンジリングをプレゼント♪</p> 	 <p>チームオレンジサポートセンターでの活動の様子です。</p>
担当課名	在宅医療・介護連携支援センター 電話：042-769-9250	

市町村名	横須賀市	
テーマ	地域で支え合い、住み慣れたまちで暮らせるために	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	375,359人
	65歳以上人口（高齢化率）	123,583人（32.92%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	76,951人（62.26%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成26年度から 人数：1 職種：社会福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：4チーム 設置場所：直営2か所、委託2か所（病院、診療所）
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和元年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成 名称：横須賀にこっとパス 活用方法：認知症ご本人やそのご家族をはじめ、医師会、 歯科医師会、薬剤師会、地域包括、認知症サポーターな どに配布、行政窓口や公共施設などで配架
	認知症カフェの開設	平成27年度から開設 カフェ数：25
	認知症予防の取組	取組内容：認知症予防教室、脳の健康度チェック（ファ イブコグ検査）
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和2年度から3件、同7年度から1件） ②設置済み（なし）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<p>1 健康づくり・介護予防の推進</p> <p>(1)フレイルの早期発見と対策</p> <p>①介護予防・フレイル予防の普及啓発の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症予防教室の開催 認知症機能評価（ファイブコグ検査）の実施 <p>2 認知症に対する理解の促進</p> <p>(1)普及啓発・本人発信支援</p> <p>①認知症サポーターの養成</p> <p>②認知症お役立ちBOOKの発行（お買い物版、金融機関版、ひとり歩き版、若年性認知症版）</p> <p>③よこすかオレンジLINEを活用した地域づくり（認知症コラムや認知症支援情報などの配信）</p> <p>④認知症月間（アルツハイマー月間）によるイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別講座「認知症とともに生きる」の開催 市役所本庁舎やよこすか近代遺産ミュージアム ティボディ邸におけるオレンジライトア ップの実施 パネル展「認知症とともに生きる～理解と応援の気持ちをオレンジで表そう～」の実施 認知症月間啓発チラシ、ポスター、Nマークシールの作成、市内各所での掲示や配架 明治安田生命こころの健康財団との共催によるYouTubeセミナーの配信 職員向け「認知症の日」におけるオレンジの物を身に付ける広報の実施 <p>3 認知症当事者と家族への支援</p> <p>(1)認知症高齢者・介護者の支援の充実</p> <p>①認知症初期集中支援事業の実施（横須賀にこっとチームによる支援）</p>	

	<p>②横須賀にこっとSOSネットワークの周知（GPS 導入の初期費用と月額利用料の一部補助、SOS 情報（行方不明者情報）のホームページ・X（旧 Twitter）・LINE による配信）</p> <p>(2) 認知症の各種相談・支援の実施</p> <p>①認知症相談窓口の設置</p> <p>②もの忘れ相談の実施</p> <p>③認知症高齢者介護者の集いの開催</p> <p>④多職種連携セミナーの開催</p> <p>⑤横須賀にこっとパス（認知症ケアパス）の発行</p> <p>(3) 認知症 地域支援体制の強化</p> <p>①認知症オレンジパートナーの養成</p> <p>②チームオレンジの構築（武丸オレンジカフェ（認知症カフェ）の立上げ支援や RUN 伴三浦半島 2025(認知症フレンドリーよこすか)への支援を含む)</p> <p>③認知症カフェへの支援（定期的な訪問による状況把握や課題への支援、認知症カフェ連絡会の開催）</p> <p>(4) 若年性認知症の人への支援、社会参加支援</p> <p>①若年性認知症支援コーディネーターとの連携</p> <p>②若年性認知症のつどいの開催（本人ミーティングの実施を含む）</p>
<p>チームオレンジにおける工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの自主性を大切にするため、市は後方支援の立場で繋ぎ役や調整役に徹し、活動の把握や助言を行っている。 ・令和6年度から翌年度にかけ、かながわオレンジ大使の希望を中心に据え、認知症オレンジパートナーらが大使の意向を感じ取り、新規オレンジカフェを開設した。そこまでに至る過程には、同じ地区の住民に向けたサポーター養成講座を開催したのを皮切りに、数回の認知症に関する学習会等を経て、機運が醸成したところにオレンジカフェ立上げを行った。
<p>担当課名</p>	<p>福祉総務課 電話：046-822-9804</p>

市町村名	平塚市	
テーマ	推進員中心に認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして事業展開	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	257,680人
	65歳以上人口（高齢化率）	74,244人（29.4%）（令和7年1月1日現在）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	43,662人（58.80%）（令和7年1月1日現在）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1 平成28年度から 人数：14（計：15） 職種：看護師、社会福祉士、作業療法士、介護福祉士、主任ケアマネ
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市内医療機関
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成27年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成（毎年更新） 名称：平塚認知症ケアガイド 活用方法：相談業務や市民向けの教室、ステップアップ研修等
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：23
	認知症予防の取組	取組内容：市民向けに認知症予防教室（コグニサイズを含む運動） 脳とからだの体操リーダー養成講座を実施 物忘れ相談プログラムを活用し脳いきいき講座につなぐ
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和2年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座、ステップアップ講座、VR認知症体験会、脳とからだの体操リーダー養成講座（コグニサイズサポーター養成講座） ・認知症初期集中支援事業のチーム員が中心となり推進員と協力して、MCⅠから困難事例まで対応している ・物忘れ相談プログラムを実施しMCⅠの方に脳いきいき講座（フォローアップ講座）を勧める ・認知症カフェ、認知症カフェ団体交流会 ・ひらつかオレンジフェス（市民公開講座を含む）、物忘れ相談会とワークショップ ・認知症に関する図書コーナー期間限定設置、ブックリストの作成と配布 	
チームオレンジ における工 夫	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の社会資源を活用している、すでに地域で活動している方と推進員が情報交換を密にしている。 ・すでに活動している運営者やボランティアの人たちに、ステップアップ研修を勧める。 ・ステップアップ研修は、市と推進員で作成したカリキュラムを基に、各地域の実情に合わせて実施する。 ・支援ニーズとニーズに対応できるマッチングシートを活用している。 	
担当課名	高齢福祉課 電話：0463-21-9621	

市町村名	鎌倉市	
テーマ	認知症にやさしい地域社会をめざして	
自治体の 情報	人口（令和7年9月末日現在）	173,883人
	65歳以上人口（高齢化率）	53,188人（30.59%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	33,977人（63.88%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：11 職種：保健師、看護師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：10 設置場所：市内地域包括10か所
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和3年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	令和元年度作成 名称：認知症サポートガイド（令和4年10月改訂） 活用方法：サポーター養成講座、店舗・病院・郵便局・薬局等に配架
	認知症カフェの開設	カフェ数：10
	認知症予防の取組	取組内容：普及啓発、出前健康教育や介護予防教室で運動やコグニサイズを実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和3年度から） ②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有、連携の構築 ・認知症アルツハイマー月間における普及啓発 ・サポーター養成講座の実施 ・ステップアップ講座の実施 ・初期集中支援推進事業 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ講座では、認知症に関する団体について、広く市民に知ってもらえる機会を設け、認知症の人や家族に対し、オレンジサポーターが具体的な支援を行いやすいよう工夫をした。 ・既に各地域で実施している活動団体の取り組みを活かし、チームオレンジとして活動を継続していけるよう工夫した。 	
担当課名	介護保険課（市民健康課） 電話：0467-61-3976	

市町村名	藤沢市	
テーマ	認知症になっても安心して暮らせるまちふじさわ	
自治体の情報	人口（令和7年12月1日現在）	444,658人
	65歳以上人口（高齢化率）	110,642人（24.88%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	67,163人（60.70%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：2 職種：社会福祉士・介護福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：3 設置場所：藤沢市高齢者支援課
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成27年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成 令和6年度改訂 名称：知ってあんしん認知症ガイドブック 活用方法：地域包括・市民センター・図書館・サポーター養成講座等へ配布
	認知症カフェの開設	平成29年度から開設 カフェ数：20
	認知症予防の取組	取組内容：脳のいきいき講座
チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和3年度から） ②設置済み（令和3年度から）	
認知症に係る主な取組（推進員活動含む）	<p>①認知症普及啓発「おれんじキャンペーンふじさわ 2025」の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おれんじフェスin湘南台@湘南台駅地下アートのスクエア」の開催 講演会「認知症の基礎知識～自分、家族のこれからを考えてみよう～」の開催 かながわオレンジ大使のコンサートと講演／未病改善コーナー／コグニサイズ など ・本庁舎にて認知症についてのパネル展開・図書館にてブックフェア開催 ・江の島シーキャンドルライトアップを実施等 <p>②認知症本人の交流会・家族のつどいを開催（年4回） 各回、回想法や講話などの時間を設けて実施。</p> <p>③地域の協議体での認知症に関するイベントへの参加</p> <p>④サポーター養成講座開催推進とサポーター養成講座のステップアップ講座を開催（年2回）</p> <p>⑤メイト連絡会開催（年1回）</p> <p>⑥認知症施策検討委員会（おれんじ会議）での認知症ご本人参画へのサポート</p> <p>⑦認知症初期集中支援チーム事業</p> <p>⑧認知症おれんじサポーター交流会に神奈川県オレンジチューターを講師に迎え開催（年1回）</p> <p>⑨チームオレンジコーディネーター意見交換会開催（年1回）</p> <p>⑩認知症 ALL ふじさわ合同ミーティングを開催（年1回）</p> <p>⑪認知症カフェ＆交流会・家族会マップ改訂</p> <p>⑫家族介護者教室（市主催）の開催 ⑬在宅介護者の会の運営</p>	
チームオレンジにおける工夫	認知症カフェ関係者、サポーター養成講座ステップアップ講座受講者、メイト、地域包括等を対象に「認知症 ALL ふじさわ合同ミーティング」を開催し、参加者同士がつながる機会を作り、チームオレンジ活動の強化発展を目指している。	
担当課名	高齢者支援課 電話：0466-50-3523	



市町村名	小田原市	
テーマ	認知症があっても住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるために	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	185,424人
	65歳以上人口（高齢化率）	57,821人（31.18%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	34,357人（59.41%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：3 職種：社会福祉士、保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：12 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成25年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成31年度作成 名称：にんちしょうケアパスおだわら 活用方法：地域包括への配架、各事業にて配布
	認知症カフェの開設	令和2年度から開設 カフェ数：7
	認知症予防の取組	取組内容：短期集中通所型サービス事業、認知症予防事業の実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和6年度から） ②設置済み（令和6年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座、サポーターフォロー研修の開催 ・「おだわら・はこね家族会」の開催 ・認知症をにんちしょう会でのフォーラム・イベントの開催 ・認知症カフェの運営支援 ・認知症初期集中支援事業の実施 ・認知症等高齢者 SOS ネットワークの実施 ・メイト連絡会の開催 ・「にんちしょうケアパスおだわら」の普及啓発 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの活動拠点となる認知症カフェ開設の支援や運営の補助を行った。 ・地域住民による見守りネットワークである「きずなチーム（在宅福祉サービスチーム）」をチームオレンジのメンバーとした。 	
担当課名	高齢介護課 電話：0465-33-1864	

市町村名	茅ヶ崎市	
テーマ	忘れても 共に生きよう ちがさきで	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	247,133人
	65歳以上人口（高齢化率）	66,786人（27.02%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	40,428人（60.53%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：25（令和7年12月1日現在） 職種：保健師、看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成23年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：茅ヶ崎市認知症あんしんガイド 活用方法：関係機関、公共施設への配架による周知、サポーター養成講座時配布、窓口相談での活用等
	認知症カフェの開設	平成29年度から開設 ガイド掲載カフェ数：12（令和7年12月1日現在）
	認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズ教室の実施
チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和4年度から） ②設置済み（令和4年度から）	
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・推進員の連絡会を設け、市と地域包括が情報交換できる場づくりを行っている。 ・各地域において推進員とチームオレンジメンバーが中心となり、イベントやサロン、カフェを開催している。 ・認知症の普及・啓発のため、9月を「ちがさき認知症月間」として上記のような各地域での取組を周知するとともに、月間の期間に「ちがさきオレンジ Day」を開催している。 ・認知症に関する普及啓発として懸垂幕「忘れても 共に生きよう ちがさきで」を作成し、9月の認知症月間の期間に、分庁舎南側に設置した。 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップ講座を通して参加者がチームオレンジの活動をイメージしやすいよう、すでに活動しているチームオレンジメンバーから活動紹介していただく時間を設けている。 ・チームオレンジメンバーのフォローアップ研修として年1回チームオレンジ研修会を実施している。 	
担当課名	高齢福祉課 電話：0467-81-7163（直通）	

市町村名	逗子市	
テーマ	認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるための体制整備	
自治体の情報	人口（令和7年12月1日現在）	57,361人
	65歳以上人口（高齢化率）	18,236（31.49%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	11,566（63.42%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成26年度から 人数：4 職種：保健師、看護師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和元年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	令和元年度作成 名称：認知症あんしんナビ 活用方法：各地域包括、相談業務等で活用
	認知症カフェの開設	平成28年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：市の介護予防教室の実施、地域包括によるコグニサイズの実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	設置（令和7年度）
認知症に係る主な取組（推進員活動含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・初期集中支援チーム員会議でのケース検討 ・認知症講演会の実施 ・サポーター養成講座の開催 ・もの忘れ相談（毎月3枠） ・認知症カフェ運営のバックアップ、講話 	
チームオレンジにおける工夫	認知症カフェをチームオレンジとして位置づけ、講演会で後援として協力いただいている。普及啓発を行うこと、当事者の声を聴くことに重点を置いている。	
担当課名	社会福祉課 電話：046-873-1111（代表）	

市町村名	三浦市	
テーマ	高齢者が多い市だからこそ頑張りたい認知症施策	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	39,378人
	65歳以上人口（高齢化率）	16,207人（41.2%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	9,965人（61.5%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：2 職種：社会福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：医療機関
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成30年度作成 名称：三浦市認知症ガイド 活用方法：認知症の相談窓口や専門の医療機関等を紹介する際に活用している。
	認知症カフェの開設	令和元年度から開設 カフェ数：3
	認知症予防の取組	取組内容：サロンにおけるコグニサイズや講話
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症等行方不明高齢者 SOS ネットワーク事業を市ホームページや介護事業所等に周知し、登録者には見守りシールを配布している。 ・認知症ケアパスを市内各医療機関や公共施設等に配架し、認知症の相談窓口や認知症の症状に沿ったサービス等を分かるようにしている。 ・推進員が認知症初期集中支援チームの対象者を見つけ、チームの支援に繋げている。 ・推進員が中心となり、サポーター養成講座を開催している。 ・認知症の人を介護している家族等が集まり、日ごろの悩み等を話し合ったり、情報交換を行う場として「オレンジ会」を開催している。 ・認知症カフェを設置し、認知症についての知識や理解の向上だけでなく、日ごろの悩み等を共有できる場の提供をしている。 	
チームオレンジにおける工夫		
担当課名	高齢介護課 電話：046-882-1111（内線352）	

市町村名	秦野市	
テーマ	みんなで作る 認知症になってもやさしいまち 秦野	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	157,847人
	65歳以上人口（高齢化率）	49,978人（31.7%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	29,770人（59.6%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：9 職種：保健師、看護師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：直営
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成29年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成 名称：秦野市認知症ガイドブック（認知症ケアパス） 活用方法：相談時に使用、窓口配下、講座やイベント、イオン秦野店での展示時に配布、ダイジェスト版を作成し、市内の商店等に配置。
	認知症カフェの開設	平成27年度から開設 カフェ数：19
	認知症予防の取組	取組内容：脳の健康教室（KUMON学習療法）、「教えて先生！認知症予防」（専門医による講演）、「広畑エンジョイカレッジ（月曜：コグニサイズ、金曜：脳トレ）」、サロンにおけるコグニサイズや講話
チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和元年度から） ②設置済み（令和2年度から）	
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ●本人ミーティング、介護者のつどいの開催。認知症カフェへの活動支援。 ●認知症月間における普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・市役所敷地内横断幕の掲示、認知の日まほろば大橋時計塔のライトアップ ・市内総合病院、市役所、図書館、公民館での展示。 ・イオン秦野店で8月に「認知症フレイル」として展示。 ●サポーター養成講座、ステップアップ講座の開催。 <ul style="list-style-type: none"> メイトの活動支援。 ●認知症予防講座の開催。 ●認知症初期集中支援事業の実施。 ●認知症ケアパス（秦野市認知症ガイドブック、ダイジェスト版）の発行。 	
チームオレンジにおける工夫	今までの活動や関係性の中で、チームオレンジの活動へのつながりや継続活動ができるよう支援している。	
担当課名	高齢介護課 電話：0463-82-7394	

市町村名	厚木市	
テーマ	認知症になっても安心して暮らせるまちへ	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	222,512人
	65歳以上人口（高齢化率）	59,251人（26.6%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	34,982人（59.0%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：18 職種：保健師・看護師、介護支援専門員、社会福祉士、事務職
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：医療法人社団 青木末次郎記念会 相州病院
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和元年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成（令和7年7月改正） 名称：厚木市簡易版認知症ケアパス 令和5年度作成（令和7年4月改正） 名称：厚木市認知症ケアパス 活用方法：各公共施設等で配布
	認知症カフェの開設	令和元年度から開設 カフェ数：8
	認知症予防の取組	取組内容：物忘れ予防教室の実施、コグニサイズの紹介DVDの貸出
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症月間における普及啓発（あつぎオレンジフェスタ開催、街頭啓発、プロジェクションマッピング、ロードギャラリー・市民交流プラザ・図書館での展示、市民交流プラザのライトアップ） ・情報紙（市内全戸配布）で認知症関連特集記事掲載 ・サポーター養成講座、ステップアップ講座の開催 ・小学生向け認知症VR体験会の実施 ・認知症初期集中支援チームと推進員との意見交換会の実施 ・認知症の人にやさしい企業や団体を認証する「あつぎオレンジサポート企業・団体認証制度」の実施 ・医療・介護関係者向けに認知症多職種研修会を実施 	
チームオレンジにおける工夫		
担当課名	地域包括ケア推進課 電話：046-225-2388	

市町村名	大和市	
テーマ	認知症とともに歩むまちやまと	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	246,417人
	65歳以上人口（高齢化率）	59,100人（23.9%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	35,189人（59.5%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：23 職種：保健師、看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員等
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市役所
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成29年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	令和7年3月改訂 名称：認知症とともに生きる旅のガイド 活用方法：市窓口、包括、医療機関等に配架 イベントでの配布、市HP掲載
	認知症カフェの開設	平成27年度から開設 カフェ数：13
	認知症予防の取組	取組内容：脳の健康度チェック（認知機能検査）、コグニサイズセミナー（単発）、コグニサイズ教室（継続型）、コグニバイク
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和5年度から） ②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアパスの改訂 認知症の人との意見交換をしながら作成。認知機能の低下に気づきのある人自身が手に取ってみようと思えるデザインや構成を心掛けた。市内の認知症の人（先輩）からのメッセージも掲載。市HP：「認知症とともに生きる旅のガイド」（大和市版認知症ケアパス）を作成。 https://www.city.yamato.lg.jp/gyosei/soshik/60/ninchisho/soudan/6660.html 「新しい認知症観」の啓発 認知症施策推進計画に係る策定準備支援事業補助金を活用し、イベント開催とそれに伴う普及啓発動画を制作。現在、動画を市公式youtubeチャンネルでの配信や講座等で活用。 市HP【新しい認知症観】認知症とともに歩むまち やまと（動画） https://www.city.yamato.lg.jp/gyosei/soshik/60/ninchisho/jyourei/24191.html ピアサポート 令和7年度から、市が開催する認知症カフェにて、認知症のご本人がピアサポートとして相談員を務めている。 https://www.city.yamato.lg.jp/gyosei/soshik/60/seniorlife/eventjinse/20088.html 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとだけでなく「やりたい」「続けたい」「始めたい」という希望に寄り添う活動を目標に掲げている。 令和8年1月には、各チームの活動を知り、より充実した活動が行われることを目的とし、市内2か所で情報交換会を開催。 	
担当課名	人生100年推進課 電話：046-260-5612	

市町村名	伊勢原市	
テーマ	チームオレンジ活動から考える本人発信機会の展開	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	99,149人
	65歳以上人口（高齢化率）	27,010人（27.2%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	16,329人（60.5%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：7 職種：保健師、看護師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：医療機関
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和2年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成28年度作成 名称：知ってあんしん認知症ガイドブック 活用方法：市や地域包括等における相談時や、認知症に関する講座等での配布、医療機関等への配架、地域住民への随時配布、市HPでの公開など
	認知症カフェの開設	平成29年度から開設 カフェ数：10
	認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズの普及、通所型サービスCにおける認知症予防プログラム、及びタブレット端末を活用した認知機能検査などを実施
チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和3年度から） ②設置済み（令和2年度から）	
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<p>○アルツハイマーデー普及啓発イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマーデー普及啓発と認知症関連事業を兼ねた「第3回いせはらオレンジフェスタ」を開催し282名の参加があった。今年度は東海大学病院認知症疾患医療センターの協力を得て、認知症認定看護師による相談会、認知症VR体験や映画、研修会等を実施。認知症の方や地域の支援者が、会場のステージで「上を向いてあるこう」等を市民の前で斉唱しチームオレンジ活動紹介を兼ねた。  <p>○オレンジカフェ・本人ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本人と一緒に過ごしてみる」「やってみる」ことで本人の自発的な声が聴こえてくるようになった。「関わる人も一緒に楽しみ」住民の支援者や本人同士、家族同士がつながり語り合う場を定期的に提供。 ・当事者の意見からカフェの開催場所の検討を行い、コーヒーチェーン店等での開催を試行した。 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症当事者と支援者という線引きはせずに活動するように心がけており、毎回、みんなが認知症に関わる当事者であるという意識を共有している。 ・認知症当事者とオレンジパートナーとのコミュニケーションが取れるよう運営に配慮している。 ・オレンジカフェ終了後に毎回ミーティングを開催。スタッフ各自より伺った当事者、家族の話を共有し、次回のカフェに生かしている。ミーティングに当事者も参加し、運営に意見を反映している。また、当事者の近所に住むパートナーが、カフェ当日に声をかけ一緒に参加する等の取組が少しずつ定着している。 	
担当課名	地域福祉推進課地域包括ケア推進係 電話：0463-94-4719（直通）	

市町村名	海老名市	
テーマ	認知症の人や家族に優しいまち「えびな」	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	140,990人
	65歳以上人口（高齢化率）	34,771人（24.6%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	20,746人（59.6%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成28年度から 人数：9 職種：保健師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員・主任介護支援専門員、事務職
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：6 設置場所：医療法人社団NALU
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成31年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成28年度作成 名称：認知症の人や家族に優しいまち「えびな」～認知症ケアパス～ 活用方法：相談初期の説明用に使用、各地域包括配布、サポーター養成講座で配布等
	認知症カフェの開設	平成28年度から開設 カフェ数：5
	認知症予防の取組	取組内容：市広報掲載（認知症についての概要や地域包括の紹介、市のサポート体制、認知症当事者や家族の思い等）、認知症関連図書フェア、認知症予防ランチ、えびなオレンジフェス等
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和6年度から） ②設置済み（令和6年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・推進員会議の開催（月1回） ・認知症初期集中支援チーム（チーム員会議年12回開催） ・認知症の正しい理解と普及啓発活動 アルツハイマーデーのイベント実施（えびなオレンジフェス）、ロバ隊長作成ボランティアの実施、図書フェア（図書館と書店）、認知症予防ランチ（市内13飲食店）、海老名駅間デジタルサイネージ、ケアパスの配布等 ・サポーター養成講座とステップアップ講座の実施 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場等で「認知症の人が通いやすい」「認知症になっても通うことができる」チームオレンジを設置 ・ステップアップ講座卒業生が集う交流会でチームオレンジの立ち上げについて講話予定 	
担当課名	地域包括ケア推進課 電話：046-235-4950（直通・代表）	

市町村名	座間市	
テーマ	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	131,313人
	65歳以上人口（高齢化率）	34,952人（26.62%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	20,663人（59.12%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：22 職種：保健師、看護師、社会福祉士、一般職
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：相模が丘地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和5年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成 名称：座間市認知症ケアパス ※簡易版改訂「認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして」 活用方法：個別相談時の利用、認知症関連講座、イベントでの配布、関連団体への配布、HP掲載
	認知症カフェの開設	平成28年度から開設 カフェ数：6
	認知症予防の取組	取組内容：講演会、認知症予防教室（ファイブ・コグ実施）、その他介護予防教室でコグニサイズ等実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和6年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・推進員連絡会の開催： チーム員も参加し各推進員の活動報告や今後の方針について情報共有や意見交換を実施した。 ・認知症月間イベント： 市及び地域包括を中心に、ショッピングモールや駅、商店街等の協力も得ながら実施した。 かながわオレンジ大使によるステージイベントを開催した。 ・サポーター養成講座： 市民向けは、講座後に座談会を設け、介護者支援及び本人の発信の機会とした。子ども向け（小学校、中学校、高等学校）、職域向け（庁内職員、郵便局、銀行等）も開催した。 ・認知症カフェ： 市内6か所で認知症カフェを定期的実施。 ・オレンジパートナーとの協働： 上記内容を市内オレンジパートナーの活動の場とした。 ・ロバ隊長マスコットによる啓発： 市民ボランティアにロバ隊長マスコットを作製してもらい、主に子ども向けのサポーター養成講座や認知症関連イベント等で配布した。 	
チームオレンジ における工 夫	<ul style="list-style-type: none"> ・構成メンバーとして、既存の社会資源（オレンジパートナー、地区社協、民生委員等）を活用し、地域全体を巻き込む形とした。 ・各包括圏域にまずは1か所設置を目指し、チームオレンジ未設置地域に差が生じないように、推進員連絡会等で他の地域包括と情報共有をしている。 	
担当課名	長寿支援課 電話：046-252-7084	

市町村名	南足柄市	
テーマ	認知症本人が希望を持って暮らせる街	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	38,801人
	65歳以上人口（高齢化率）	13,611人（34.24%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	8,351人（61.35%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：12（委託地域包括含む） 職種：主任介護支援専門員、社会福祉士、看護師、保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：基幹型地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和3年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成26年度作成 名称：認知症相談ガイドブック 活用方法：市ホームページに掲載
	認知症カフェの開設	平成28年度から開設 カフェ数：4
	認知症予防の取組	取組内容：健康づくり課主催で認知症予防教室を実施 介護予防サポーターが地域で脳トレ教室を実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和3年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<p>当市では、認知症地域支援アクションミーティングを実施している。</p> <p>参加者は、①認知症カフェ、②農園活動、③認知症支援マップの作成、④講演会の企画運営の4チームに分かれ活動を行っている。</p> <p>それぞれのチームにはオレンジパートナー、医療福祉の関係者、民生委員、介護サービス事業所などが参加しており、推進員が中心となって活動を行っている。</p> <p>このアクションミーティングの活動がチームオレンジの活動になっている。</p> <p>アクションミーティングの他、認知症家族のつどいやもの忘れ相談会、認知症初期集中支援チーム等の認知症事業を行っている。</p> <p>認知症月間では、駅、道の駅、図書館、市役所高齢介護課の窓口で飾りつけやコーナーを設置し、啓発活動を実施。</p>	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> 認知症家族のつどいの当事者側を認知症カフェとし、地域の方が参加しやすいようにした。つどいに参加した認知症当事者は、カフェの雰囲気を楽しみながら多くの参加者と交流を図ることが出来ている。また社協のボランティア講座を受講したメンバーと一緒にカフェを行うことで、ボランティアの活躍の場にもなっている。 小規模多機能型居宅介護のスタッフによるカフェイベントを開催している。事業所が地域交流を目的としたイベント開催を検討していたため、推進員と話し合いを重ね、開催に至った。会場を地域の公民館にしたことで自治会との繋がりが生まれ、地域住民の参加が少しずつ増えている。 	
担当課名	高齢介護課 電話：0465-74-3196	

市町村名	綾瀬市	
テーマ	認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって住み慣れた地域で過ごせるために	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	83,876人
	65歳以上人口（高齢化率）	22,587人（26.9%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	14,435人（63.9%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成30年度から 人数：6 職種：介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：直営
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	令和2年度作成 名称：認知症ケアパス 活用方法：あやせいきいき健康だより（全戸配布）、ホームページに掲載
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：4
	認知症予防の取組	取組内容：コグニバイク講習会の実施、利用、eスポーツの実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和5年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・推進員連絡会の開催（偶数月） ・令和7年度は県のもの忘れ未病改善教室（J-MINT 型プログラム：6か月間24日間コース）の開催や認知症未病改善キャラバンに参加 ・VR体験を通じた「認知症フレンドリー講座」を小学生及び高齢者向けの2回実施 ・サポーター養成講座の出張開催のチラシを、老人クラブ、地区社協の総会で配布しPR ・令和8年度本市の「認知症施策推進計画」の策定を予定し、認知症当事者（本人及び家族）アンケートを実施、第10期介護保険事業計画に関する一般調査等に「認知症」に係る設問を追加 ・小中学生対象に職業体験を実施している「ミニあやせ」に参加、認知症の方への声かけ体験とコグニサイズを実施（令和7年度は会場都合により中止） ・認知症カフェの開催場所の工夫（喫茶店、パン屋、ファーストフード店、民家等） ・「あったか訪問」として75歳以上の独居高齢者に訪問活動 	
チームオレンジにおける工夫	既存の認知症カフェ内に設置をし、以前から参加して運営などにご協力いただいている方を中心にメンバーを構成。まずは、メンバーの方の負担感が大きにならないように、今まで行ってもらっていた、カフェの運営サポート、カフェ内でのミニ講座の企画、カフェに参加された当事者が楽しく過ごせるようなサポート、当事者家族の悩みの傾聴等を中心にできるところから活動していただいている。	
担当課名	地域包括ケア推進課 電話：0467-77-1116	

市町村名	葉山町	
テーマ	認知症になっても安心して暮らせるまちをつくる	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	31,470人
	65歳以上人口（高齢化率）	10,101人（31.7%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	6,478人（64.1%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成28年度から 人数：6 職種：看護師、保健師、社会福祉士、介護支援相談員
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：0（医師不在のため） 設置場所：町役場予定
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	無
	ケアパスの作成・活用方法	令和元年度作成し、令和6年度に改定 名称：知ってあんしん 認知症ガイドブック（認知症ケアパス） 活用方法：初期の相談時や訪問時にて活用
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズ実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	未設置（設置予定 未定）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の集まりの場で町の認知症施策について説明 ・6月に近隣市勤務医（精神科医）によるサポーター養成講座開催 ・3月地域住民にサポーター養成講座開催 ・9月にアルツハイマーデーに合わせパネル展示による認知症についての普及啓発実施 	
チームオレン ジにおける工 夫	<p>チームオレンジ設置数は0であるが、住民が主体となって独居高齢者や認知症の方の見守りを行っている。また、住民主体の通いの場に認知症の方も参加し、住民同士で助け合いながら活動を行っている。</p> <p>逗子市のチームオレンジ会の見学実施。</p>	
担当課名	福祉課 電話：046-876-1111（内線：232）	

市町村名	寒川町	
テーマ	手厚い個別支援と地域支援体制の構築で認知症になっても安心して過ごせる町へ	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	48738人
	65歳以上人口（高齢化率）	13,567人（27.8%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	8,025人（16.4%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：2（令和7年度に1人追加） 職種：社会福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：町
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成30年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成27年度作成 名称：高齢者ガイド 活用方法：町内の公共施設・医療機関等に配架、ホームページへの掲載
	認知症カフェの開設	平成29年度から開設 カフェ数：6
	認知症予防の取組	取組内容：介護予防教室等の実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー月間における認知症啓発イベントの開催 町内の団体と共催し、アルツハイマー月間に認知症啓発イベント「オレンジフェスタ」を開催した。 音楽の演奏やチームオレンジメンバー等の協力による昔の遊び等を楽しみながら認知症について 知ることができる場となるよう工夫した。 図書館に認知症に関する本やチラシを設置した。 町内のスーパーの協力を得て、高齢者の利用が多い店舗の一部を借りて認知症&健康チェックのイ ベントを実施した。 ・認知症初期集中支援事業 町と推進員が一体となって年間200回以上の訪問を行い、毎月1回チーム員会議を実施している。 支援人数は年々増加し、令和6年度は50名にのぼった。 ・サポーター養成講座の実施（住民、中学校など） 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が少なくコンパクトな当町の特徴を生かし、町全体で1つのチームオレンジを設置することとし、メンバーの登録や管理は町が主体となって行っている。 ・現在は意欲の高いメンバーにチームオレンジの活動の場やイベント等を企画してもらい、町は登録者全員にその周知等を行うかたちでチームの活性化を図っている。 ・今年度はチームオレンジメンバーの連絡交流会を年2回実施し、認知症事業の理解とメンバーの交流をメインに実施した。 ・認知症カフェにおいて、チームオレンジのメンバーがスタッフや演奏者として参加し、カフェを盛り上げている。 	
担当課名	高齢介護課 電話：0467-74-1111（代表）	

市町村名	大磯町	
テーマ	認知症を知り、身近に感じてもらうまちづくり	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	31,471人
	65歳以上人口（高齢化率）	10,996人（34.9%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	6,866人（62.4%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成30年度から 人数：2 職種：社会福祉士、保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：大磯町西部地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	無
	ケアパスの作成・活用方法	令和2年度作成 名称：認知症ガイドブック（大磯町認知症ケアパス） 活用方法：窓口配布、サポーター養成講座にて配布（中学校）
	認知症カフェの開設	令和5年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：スクエアステップのひろば、介護予防教室
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	未設置
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー月間に図書館へ協力依頼し認知症コーナーを設置。図書館に認知症や介護に関する本と普及啓発冊子やチラシを設置した。 ・認知症に関するチラシや冊子をまとめたミニコーナーを設置（保健センター内） ・サポーター養成講座の実施（金融機関・中学校） 	
チームオレン ジにおける工 夫	なし	
担当課名	福祉課 電話：0463-61-4100	

市町村名	二宮町	
テーマ	住み慣れた地域で自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	27,183人
	65歳以上人口（高齢化率）	9,801人（36.1%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	6,209人（63.4%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：1 職種：社会福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：二宮町役場
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成30年度作成（適宜更新） 名称：二宮町認知症ケアパス～認知症とともに暮らす道 するべ～ 活用方法：高齢者や介護者、関係機関へ配布
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：4
	認知症予防の取組	取組内容：地域の通いの場で講座の実施等
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和5年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<p>○認知症に関する正しい知識の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロバ隊長マスコットづくりを通して普及啓発 ・中学校や高校などの若年層、町職員や銀行員等へサポーター養成講座を実施 ・認知症月間/世界アルツハイマー月間に、信友直子監督による福祉講演会～「ぼけますから、よろしくお願いします」と気兼ねなく言い合える地域社会をめざして～を開催 ・認知症の予防（地域の通いの場や老人クラブで継続的な認知症予防／認知症未病改善キャラバンの活用等取組みを実施） <p>○相談・支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報やホームページを通じて相談窓口の周知 ・にのにんカフェ（認知症カフェ）、 認知症サポーターのつどいを定期的実施 ・認知症サポーターステップアップ講座の開催 	
チームオレンジにおける工夫	定期的にサポーター同士で活動報告を行い、それぞれの暮らしの中でのちょっとした気遣いが大きな安心につながっていることや本人の声に耳を傾けることの大切さを確認しあっています。そのためにも、オレンジ大使をお招きする機会をつくり、経験談など直接お話しを伺っています。	
担当課名	高齢介護課 電話：0463-75-9542	



市町村名	中井町	
テーマ	認知症の理解を深め、地域で支え合える環境について考える	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	8,805人
	65歳以上人口（高齢化率）	3,242人（36.8%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	1,937人（59.7%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：1 職種：介護福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：中井町健康課
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	有（令和7年12月実施予定）
	ケアパスの作成・活用方法	平成30年度作成 令和6年度見直し 名称：知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス） 活用方法：相談、町内自治会等の集まりの場での啓発等に使用
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：1
	認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズ等の認知症予防を取り入れたプログラムの開催（和太鼓エクササイズ等）フレイル予防事業の実施、町民に向け認知症VR体験の実施
チームオレンジの取組【別紙2参照】	未設置（設置準備中、令和7年度中設置）	
認知症に係る 主な取組（推進員活動含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ事業 年間12回のカフェを企画・開催。参加者が楽しみながら交流を図れるプログラム（令和7年度は、そろばんの他体操やコーラス、演奏等を実施）を行うとともに、本人に限らず、家族等が参加者間で気軽に話ができ、共有できる時間を多く持てるよう調整を図った。 ・サポーター養成講座 町消防団（4年目）、小学校2校（6年目）、町内団体、一般町民、町職員を対象に実施。この他に新たに自治会から要望をもらい、講座を実施。住民向け周知に取り組んだ。 ・アルツハイマーデー・月間における啓発活動 これまで1カ所の町図書館との連携を2カ所に増やし、認知症関連書籍等の展示コーナーを設置し、普及啓発を図った。 ・町民に認知症に関して理解を深めてもらう取り組みとして、認知症VR体験を開催。 	
チームオレンジにおける工夫	・令和7年度より開始するべく、調整中。既存拠点活用による開始を準備。認知症カフェの参加者、サポーターに協力を図り、開始予定。（令和7年12月中打合せを予定。その後活動開始）	
担当課名	健康課 電話：0465-81-5546	

市町村名	大井町	
テーマ	認知症カフェが地域の憩いの場に	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	17,267人
	65歳以上人口（高齢化率）	5,019人（29.1%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	3,016人（60.1%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成25年度から 人数：2 職種：保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：2 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成28年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成31年度作成 名称：認知症ガイドブック 活用方法：関係機関の窓口などに配架、希望者に配布
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：1
	認知症予防の取組	取組内容：認知症予防講座の実施、おーい！元気会にて コグニサイズの実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和元年度から） ②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアパスの普及、啓発 認知症基本法の施行に合わせて内容を改定し再発行した。関係機関窓口での配架を依頼し、民生委員や認知症サポーターなどに配布した。町ホームページにも掲載している。 ・認知症カフェ（オレンジカフェ）の開催 地域の認知症本人・家族・物忘れが気になってきた方・支援者などを対象に毎月一回カフェを開催。隔月でイベントを企画してリフレッシュの場を提供するとともに、情報交換や交流の場として活用してもらっている。 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェは開始前に約半年間プレオープンとし、その間に運営内容など検討しながら本格オープンに備えた。カフェ終了後にサポーターで反省会を行い情報共有に努めている。 	
担当課名	福祉課 電話：0465-83-8024	

市町村名	松田町	
テーマ	住民と共同で地域を支える取組みの推進	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	10,346人
	65歳以上人口（高齢化率）	3,719人（35.9%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,262人（60.8%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1 職種：社会福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	無
	ケアパスの作成・活用方法	平成28年度作成 名称：認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして 活用方法：窓口相談時、サポーター養成講座時
	認知症カフェの開設	平成29年度から開設 カフェ数：1
	認知症予防の取組	取組内容：認知症予防サークルに継続実施支援、（3カ所）、認知症予防・介護予防を住民主体の自主グループでの運動教室支援
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ【MATSUDA おれんぢかふゑ】を住民ボランティア団体（チームオレンジ）と共に月1回、認知症家族のつどい年4回、ボランティア現任研修年2回実施。 ・認知症初期集中支援チーム活動、家族介護教室、サポーター養成講座（自治会向け） 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも MATSUDA おれんぢかふゑ【認知症カフェ】に参加している当事者の方をチームの一員として一緒にカフェを運営している。できるだけ当事者目線を大切に運営すると共に意見を共有するようにしている。 ・年2回現任研修を行い、地域でできること、チームオレンジの意味を明確にしつつ、日常生活でも地域に目を配り、支え・支援できるようにしている。 ・サポーター養成講座を自治会向けに開催しており、認知症の症状を伝えやすいように劇も交えている。 	
担当課名	福祉課 電話：0465-83-1226	

市町村名	山北町	
テーマ	令和5年度事業の継続・充実	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	9,124人
	65歳以上人口（高齢化率）	3,969人（43,50%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,334人（58,81%）
	認知症地域支援推進員の配置	令和2年度から 人数：1 職種：保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成30年度作成 名称：認知症ガイドブック 活用方法：全戸配布
	認知症カフェの開設	令和元年度から開設 カフェ数：1
	認知症予防の取組	取組内容：介護予防教室
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和7年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座、サポーターステップアップ研修の開催 ・認知症カフェを月1回開催 ・推進員が通いの場に参加 ・認知症月間に図書室に認知症関連図書コーナーを設置 	
チームオレンジにおける工夫		
担当課名	保険健康課 電話：0465-75-3642	

市町村名	開成町	
テーマ	認知症になっても住み慣れた地域で生活できる地域づくりの取組	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	18,552人
	65歳以上人口（高齢化率）	4,716人（25.4%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,838人（60.1%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1 職種：保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：町
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成27年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成28年度作成 名称：認知症ガイドブック 活用方法：講座や希望者へ配布、HP上への掲載
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：シニア脳トレ学習塾（脳の健康教室）の実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和5年度から） ②設置済み（令和5年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症月間に合わせて認知症初期支援チームについての特集記事を広報で掲載。 ・サポーター養成講座を開催し、地域での見守り力の向上に努めるとともに、認知症予防講座を実施し、認知症への関心を高められるよう努めた。 ・認知症予防のため週1回5か月間の教室（シニア脳トレ学習塾）を実施。教室の初回と最終回でMMSEを実施し、効果検証を行っている。 ・町内の事業所等との連携強化を図り、認知症の人が地域で暮らしていくための社会資源の創出について検討を行っている。 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の団体だけではなく、ステップアップ講座を受講してくれた受講者が団体に所属していなくても、一人一人が地域で認知症の方を見守っていく取り組み、地域自体がチームオレンジであるという伝え方をし、町全体として認知症の方を見守っていく一人であるという意識を持ってもらうよう努めている。 	
担当課名	福祉介護課 電話：0465-84-0316	

市町村名	箱根町	
テーマ	いつまでも住み慣れた町で暮らしていくための支援と地域づくり	
自治体の情報	人口（令和7年12月1日現在）	10,703人
	65歳以上人口（高齢化率）	4,018人（37.5%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,466人（61.4%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：2 職種：社会福祉士、介護支援専門員
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和5年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：認知症安心ガイド 活用方法：行政機関の窓口配下
	認知症カフェの開設	令和4年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：脳と体の若返り教室及びコグニサイズの普及
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和5年度から） ②設置済み（令和5年度から）
認知症に係る主な取組（推進員活動含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座： <ul style="list-style-type: none"> ①毎月1回町立施設にて定期開催 ②サロンや民間企業の希望に応じて出張講座を実施 ③町職員対象に開催予定 ④中学生対象に開催予定 ・アルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する記事を「回覧まちだより」に掲載。 ・認知症をにんちしよう会の活動の一環として、「2025健康・福祉フェスティバル」において、個別相談を実施。 ・キャロットカフェ（認知症カフェ）の開催（年12回）を支援 ・オレンジカフェ宮城野（認知症カフェ）を今年度から開催（年12回）を支援 ・認知症初期集中支援チーム員会議（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の広域で開催）。 ・おだわら・はこね家族会 ・認知症等行方不明SOSネットワーク ・GPS位置情報検索機器の貸与（平成29年度から実施） 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジリングの制作をチームオレンジに委託。 ・認知症マフの制作をチームオレンジに委託。 ・オレンジカフェ宮城野（認知症カフェ）の運営をチームオレンジに委託。カフェ終了後にサポーターで反省会を行い、次回の催し物について決めたり、普及啓発の方法等を検討したりしている。 ・既存のサロン活動等の取り組みを活かし、チームオレンジとしての要素を加えて活動していく方法を検討した。 	
担当課名	福祉課 電話：0460-85-7790（直通）	

市町村名	真鶴町	
テーマ	地域で認知症の方を見守り・支えられる町づくり	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	6,390人
	65歳以上人口（高齢化率）	2,941人（46.0%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	1,793人（61.0%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1 職種：保健師
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	無
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：認知症安心ガイド 活用方法：公共機関等配架
	認知症カフェの開設	令和5年度から開設 カフェ数：1
	認知症予防の取組	取組内容：認知症予防教室（お達者教室）
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	②設置済み（令和7年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・まなづるオレンジカフェ 地域医療振興協会と連携し「町の保健室」（健康相談の場）に合わせて月に1回実施している。参加者に興味を持ってもらえるようなテーマを考え、オープンスペースでの開催等、誰もが参加しやすい雰囲気づくりに努めている。また世代間交流を図り、町全体で認知症について学ぶ機会となるよう取り組んでいく。 ・サポーター養成講座の開催 平成25年から中学校と連携し授業の一環として取り入れている。今年度は、中学生のサポーター養成講座と町の配食ボランティアに対する講座を合同開催する予定。引き続き、町全体での見守り体制が取れるように幅広い年代での開催を行っていく。（配食ボランティアの講習や職員の研修会等） 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度に県の伴走事業を活用し、チームオレンジを設置した。町民のボランティアや様々な関係機関が関わっていただけるよう声かけや周知を行った。 <p>今後も認知症の方々を町全体で見守り、支えられるよう一人一人が自分のこととして考えられるようオレンジカフェやサポーター養成講座の内容を検討していく。</p>	
担当課名	保険福祉課 電話：0465-68-1131（代表）	

市町村名	湯河原町	
テーマ	認知症の方とその家族の方を支える地域づくり	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	22,803人
	65歳以上人口（高齢化率）	10,005人（43.88%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	6,290人（62.86%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：5 職種：介護支援専門員、看護師、介護施設職員
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	令和6年度作成 名称：認知症安心ガイド 活用方法：役場窓口、医療機関、協力機関等で配布
	認知症カフェの開設	令和4年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：頭の体操教室（ものわすれ予防）、iPadを使った脳若トレーニング、公園体操（コグニサイズ）の実施、健康カラオケ（令和6年10月から実施）
チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和6年度から）	
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チーム員会議の開催（西湘地域一市三町（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町）の広域で実施） ゆがわら・まなづる家族会を2か月に1回開催。介護者同士の交流や医療・介護の専門職との情報交換の場として活用 認知症をにんちしよう会（西湘地域一市三町の行政、地域包括、医療関係者、介護関係者からなる会）により、認知症啓発フォーラムやイベントを実施 サポーター養成講座の開催及びメイト講師派遣、ステップアップ講座開催 中学3年生向けサポーター養成講座を実施 認知症カフェを、2ヶ月に1回、民間のボランティアが開催。新しく1か所が令和7年10月から毎月の開催。 認知症月間・認知症の日に合わせ、町広報誌、ホームページ、駅前大型電光掲示板等での周知、図書館での認知症啓発コーナーの設置、認知症映画上映会の開催により、啓発活動を実施 成年後見制度利用支援、ひとり暮らし高齢者登録・認知症等行方不明SOSネットワーク登録の推進 頭の体操教室（ものわすれ予防）、iPadを使った脳若トレーニング、公園体操（コグニサイズ）などの介護予防事業の実施 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> すでに民間のボランティアが実施している認知症カフェと、町が実施している家族会をチームオレンジの拠点とすることを考え、令和6年度から設置 メンバー協力のもと9月に認知症映画上映会を開催 メンバーとの打合せ会を実施、打合せの際にメンバーが参加しやすくなるよう ZOOM と会場のハイブリットで開催 LINE のオープンチャットを活用し、メンバーと認知症に関する情報の共有等ができるよう連絡の取りやすい体制づくりを行う 	
担当課名	介護課 電話：0465-63-2111（内線：344・345）	

市町村名	愛川町	
テーマ	いつまでも住み慣れた地域で自分らしく	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	39,187人
	65歳以上人口（高齢化率）	12,394人（31.6%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	7,090人（57.2%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1 職種：保健師1、事務職1
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	無
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：認知症あんしんガイド 活用方法：相談初期の説明用に使用、窓口に配架
	認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数：2
	認知症予防の取組	取組内容：認知症予防教室（コグニサイズプログラム）
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	未設置（設置予定 未定）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー月間の周知記事の掲載 ・認知症サポーター養成講座（町行政職員向け） 	
チームオレン ジにおける工 夫		
担当課名	高齢介護課 電話：046-285-6938	

市町村名	清川村	
テーマ	認知症について村民の誰もが正しい知識を持ち、早期に相談できる体制・地域で支える関係づくり	
自治体の 情報	人口（令和7年12月1日現在）	2,650人
	65歳以上人口（高齢化率）	1,054人（39.7%）
	75歳以上人口（高齢者に占める割合）	586人（55.2%）
	認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1 職種：社会福祉士
	認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
	認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施
	ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：清川村認知症あんしんガイドブック 活用方法：相談初期の説明用に使用
	認知症カフェの開設	令和3年度から開設 カフェ数：1
	認知症予防の取組	取組内容：認知機能向上教室（一般介護予防事業）の実施
	チームオレンジの取組【別紙2参照】	①設置済み（令和4年度から） ②設置済み（令和4年度から）
認知症に係る 主な取組（推 進員活動含 む）	<ul style="list-style-type: none"> ・社協と連携をとりながら、住民主体による住民活動（見守り、お茶飲み、体操、散歩等のサロン活動）の支援、サポーター養成講座を実施。支援の必要な方の早期対応に努めている。 ・独居・高齢者世帯への配食サービスによる地域の見守りの実施 ・75歳以上の独居高齢者の訪問等による把握 ・引きこもり・軽度認知症の方などに対する通所型サービスAの実施 ・認知機能向上教室（一般介護予防事業）の実施 ・徘徊高齢者に対する「認知症高齢者等見守り支援ラベルシール」の配布 ・「包括だより」や、村広報紙に認知症の正しい知識を掲載 ・世界アルツハイマー月間の9月に図書館内で、認知症について啓発事業の実施 ・介護家族交流会（認知症の方の家族も含む）の実施 ・村主催の認知症カフェの実施 	
チームオレンジにおける工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会や婦人会など、既存の活動を活かしてチームオレンジとしても継続できるようにした。 	
担当課名	子育て健康福祉課 電話：046-288-3861	

○チームオレンジ設置状況調査結果（令和7年12月1日時点）

番号	市町村名	問1 チームオレンジ①または②の設置状況	問2 設置数	問3【県独自】 チームオレンジ①				問4【県独自】 設置時期	問5 設置数	問5【県独自】 設置時期	問6 未設置 チームオレンジ①または②の設置予定
				類型ごとの設置数							
				第1類型（新規拠点設置タイプ）	第2類型（既存拠点活用タイプ）	第3類型（非拠点タイプ）	その他・分からない				
1	横浜市	設置済み	19	11	3	0	0	令和4年度	15	令和4年度	
2	川崎市	設置済み	5	0	5	0	0	令和4年度	0		
3	相模原市	設置済み	1	1	0	0	0	令和6年度	660	令和6年度	
4	横須賀市	設置済み	4	1	3	0	0	令和2年度	0		
5	平塚市	設置済み	13	0	13	0	0	令和2年度	0		
6	鎌倉市	設置済み	1	0	1	0	0	令和3年度	9	令和4年度	
7	藤沢市	設置済み	1	0	0	0	1	令和3年度	1	令和3年度	
8	小田原市	設置済み	2	0	1	1	0	令和6年度	0		
9	茅ヶ崎市	設置済み	17	9	7	1	0	令和4年度	17	令和4年度	
10	逗子市	設置済み	1	0	1	0	0	令和6年度	0		
11	三浦市	設置済み	0	0	0	0	0		1	令和4年度	
12	秦野市	設置済み	7	0	7	0	0	令和元年度	11	令和2年度	
13	厚木市	設置済み	0	0	0	0	0		4	令和4年度	
14	大和市	設置済み	3	1	2	0	0	令和5年度	15	令和4年度	
15	伊勢原市	設置済み	6	0	6	0	0	令和3年度	5	令和2年度	
16	海老名市	設置済み	2	0	2	0	0	令和6年度	0		
17	座間市	設置済み	0	0	0	0	0		1	令和6年度	
18	南足柄市	設置済み	1	0	1	0	0	令和3年度	0		
19	綾瀬市	設置済み	0	0	0	0	0		4	令和6年度	
20	葉山町	設置済み	1	0	1	0	0	令和7年度	1	令和7年度	令和7年度中
21	寒川町	設置済み	1	0	0	1	0	令和4年度	0	令和7年度中	
22	大磯町	未設置									未定
23	二宮町	設置済み	0	0	0	0	0		1	令和5年度	
24	中井町	未設置						令和7年度			令和7年度中
25	大井町	設置済み	1	0	0	0	1	令和元年度	1	令和4年度	
26	松田町	設置済み	0	0	0	0	0		1	令和4年度	
27	山北町	設置済み	1	0	1	0	0		1	令和4年度	①令和7年度
28	開成町	設置済み	2	0	2	0	0	令和5年度	1	令和5年度	
29	箱根町	設置済み	0	0	0	0	0		4	令和5年度	
30	真鶴町	設置済み	0	0	0	0	0		1	令和7年度	
31	湯河原町	設置済み	0	0	0	0	0		1	令和6年度	
32	愛川町	未設置									未定
33	清川村	設置済み	16	0	1	0	15	令和4年度			
	合計	30	105	23	57	3	17		755		

・チームオレンジ設置状況調査は、厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課の実施する「認知症総合支援事業等実施状況調べ」の内容に県独自質問を追加したものです。

・『チームオレンジ①』：コーディネーター研修テキスト「認知症サポーターチームオレンジ運営の手引き」で示されている「チームオレンジの三つの基本」（i. ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている。ii. 認知症の人もチーム員の一人として参加している。（認知症の人の社会参加）iii. 認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。）を満たすもの

・『チームオレンジ②』：3つの基本は満たさないものの、本人・家族のニーズとステップアップ講座を受講した認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組みが構築されているもの

3 各保健福祉事務所・センターにおける認知症施策の取組

保健福祉事務所名	平塚保健福祉事務所
管轄市町村	平塚市、二宮町、大磯町
主な取組	<p>○精神科医師によるもの忘れ・認知症相談を月1回実施した。</p> <p>○管内市町の認知症施策担当課、警察、県高齢福祉課と担当者会議を開催。関係者間の連携の強化並びに管内認知症施策事業の円滑な実施に向けて情報共有、意見交換を行った。</p> <p>○以下の通り、普及啓発活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労務安全衛生協会平塚支部主催令和7年度地区会で若年性認知症をテーマに講義実施。 ・世界アルツハイマーデー月間中、平塚合同庁舎、平塚保健福祉事務所にて、認知症関連リーフレット等関係書類の展示と配布。 ・二宮町社会福祉大会・ふれあい福祉のつどいにて、福祉講演会の開催（二宮町等と共催）と、「脳体カトレーナー CogEvo」の出展。 ・当所食品衛生課主催の新規営業者向け食品衛生責任者実務講習会で認知症についてミニ講座を実施。 <p>○平塚市、大磯町、二宮町と共催し認知症カフェ運営団体の交流会を開催。日々の活動へ活かせる情報が得られ、横のつながりを深める機会を目指し講義とグループワーク実施。</p> <p>○地域の外食チェーン店を活用した新規認知症カフェを2件本格稼働（マクドナルド平塚山下店、デニーズ見附町店）。</p>
今後の取組	<p>○新規認知症カフェ2件のうち1件は若年性認知症を主な対象とし、神奈川県若年性認知症支援コーディネーター、平塚市と共催で企画している。この取り組みを機に、管内における若年性認知症への支援・連携体制づくりに努める。</p> <p>○もの忘れ・認知症定例相談について、実施後の支援体制を含め内容を見直し、今後の更なる効果的な運用、発展へむけ取り組む。</p>
担当課名	保健予防課 電話：0463-32-0130（代）

保健福祉事務所名	平塚保健福祉事務所秦野センター
管轄市町村	秦野市、伊勢原市
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・もの忘れ相談を月1回開催。来所または訪問で実施し、本人、家族、支援者への相談に応じた。 ・専門職派遣事業として、認知症を持つ方、家族の支援に関わる介護支援専門員等を対象にした研修を共催にて開催した。 ・若年性認知症当事者と家族の交流の場、発信の場として、年1回つどいを開催した。 ・アルツハイマー月間にて若年性認知症の普及啓発のためのポスター掲示・チラシの配架を行った。 ・認知症家族の会 秦野市”ひまわりの会”/ 伊勢原市”手と手の会”への参加した（各1回）

今後の取組	<ul style="list-style-type: none">・前年度に引き続き、支援者を対象とした研修会や当事者・家族支援（つどい）等の開催を検討していく。・認知症担当者会議を開催し、取組内容や課題等の意見交換を行う。
担当課名	保健予防課 電話：0463- 82-1428（代）

保健福祉事務所名	鎌倉保健福祉事務所
管轄市町村	鎌倉市、逗子市、葉山町
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科医師によるもの忘れ・認知症相談を年8回来所で実施し、本人や家族、支援者への相談に対応した。 ・管内市町の認知症施策担当課、認知症疾患医療センター、若年性認知症支援コーディネーター、県高齢福祉課を対象に担当者会議及び認知症等行方不明 SOS ネットワーク担当者会議を同日開催し、管内認知症施策事業の円滑な実施に向けて情報交換等を行った。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型認知症疾患医療センターが追加されたことを踏まえ、次年度の担当者会議を行っていきたい。
担当課名	保健予防課 電話：0467-24-3900

保健福祉事務所名	鎌倉保健福祉事務所三崎センター
管轄市町村	三浦市
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科医師によるメンタルヘルス相談（もの忘れ相談含む）を毎月実施している。 ・認知症施策ネットワーク会議を開催し、地域包括の推進員や市担当者と現状把握や課題の共通認識を行っている。 ・当センターで実施している出前型各種講習会の一環として、認知症ケアについて、随時依頼を受け出前講座を実施している。 ・認知症についての理解促進のため、認知症市民講演会を実施した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・上記取組を継続して実施していく。
担当課名	保健予防課 電話：046-882-6811

保健福祉事務所名	小田原保健福祉事務所
管轄市町村	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回精神科医による定例相談（予約制）を実施し、本人・家族の相談支援の他、地域包括等からの困難事例へのコンサルテーションとしても活用している。 ・「認知症施策担当者会議及び認知症等行方不明 SOS ネットワーク担当者会議を同日に開催し、各地域の認知症の方を見守る取組みの好事例について情報共有し、今後の地域の見守り体制の構築のための意見交換を行った。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・定例相談（予約制）に関しては、引続き、市町や包括のニーズに沿った調整をしていく。 ・地域の関係機関と連携し、効果的な認知症啓発普及事業を展開していく。
担当課名	保健予防課 電話：0465-32-8000

保健福祉事務所名	小田原保健福祉事務所足柄上センター
管轄市町村	南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回専門医による認知症相談を実施（予約制）。毎月開催している精神保健福祉相談でも認知症に関する相談が可能。家庭訪問や来所面接を行い、ご本人・ご家族、関係機関職員等、地域支援者の相談の場として活用いただいた。 ・管内市町村による SOS ネットワークの担当者会議を開催し、足柄上地域の共通要領の運用について意見交換を行った。また、認知症担当者会議を併せて実施し、取組内容や課題についての意見交換を行った。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者を対象に、最新の認知症診療と多職種連携をテーマに医療と福祉のそれぞれの強みを考える認知症従事者研修会を開催予定。 ・合同庁舎職員対象にサポーター養成講座を開催予定。
担当課名	保健予防課 電話：0465-83-5111

保健福祉事務所名	厚木保健福祉事務所
管轄市町村	厚木市、海老名市、座間市、愛川町、清川村
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科医師による精神保健相談（もの忘れ・認知症相談含む）を実施している。ご家族・関係者のみの相談も可能。 ・管内市町村、警察、保護協力施設に出席いただき、管内市町村の認知症事業担当者会議及び認知症行方不明 SOS ネットワークの担当者会議を合同で開催し、認知症事業の取組やネットワークの現状について情報共有を行っている。 ・看護学生を対象にサポーター養成講座を実施している。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の取組を継続していく。
担当課名	保健予防課 電話：046-224-1111

保健福祉事務所名	厚木保健福祉事務所 大和センター
管轄市町村	大和市、綾瀬市
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科医師による、もの忘れ・認知症相談（予約制）を年6回、来所または訪問で実施。 ・認知症普及啓発事業として「大和市スポーツフェスタ 2025」にて認知症未病改善キャラバンブースを出展し、CogEvo を大和市民に実施した。 ・世界アルツハイマーデー月間にあわせ、ポスターの掲示やパンフレットを配架し、来所された住民の方々に、未病（認知症版）のパンフレットについて説明と配布を行い、普及啓発を行った。 ・認知症専門職派遣事業の支援者研修会として、大和ケアマネージャー連絡協議会研修会の共催として参加。医師による講演と、若年性認知症支援コーディネーターの活動紹介、若年性認知症当事者の講演を実施した。 ・大和市コンシェルジュ連絡会および綾瀬市推進員連絡会に出席し、情報共有を行った。 ・看護学生を対象にサポーター養成講座を実施した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の取組を継続。 ・認知症担当者連絡調整会議では、脳神経内科専門医による若年性認知症の「公開講演会」を開催し、疾患の理解と地域との連携について関係者に啓発を行う。また、若年性認知症患者との関わりについて、事例紹介と関係機関の活動紹介を行う予定。 ・認知症等行方不明 SOS ネットワーク会議では、課題の取組みについて情報共有を行う予定。
担当課名	保健予防課 電話：046-261-2948

保健福祉事務所名	茅ヶ崎市保健所
管轄市町村	茅ヶ崎市、寒川町
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> • 若年性認知症の定例事業として「本人ミーティング」を毎月1回実施している。また、家族会である「うみの会」は自主グループとして年4回、本人ミーティングの同日に開催しており、保健所は事務や会場予約等のサポートを行っている。 • 市、町で開催される認知症初期集中支援チーム員会議に必要なに応じて出席し、初期集中支援チームとの連携・協力を行っている。 • 市の高齢福祉課主催の「ちがさきオレンジDay」において、若年性認知症に係るパネル展示を行った。 • 若年性認知症従事者研修を年1回実施。今年度は湘南東部総合病院認知症疾患医療センターの若年性認知症支援コーディネーターとの共催で研修会を実施した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> • 若年性認知症の本人、家族に対して、地域のニーズに応じて必要な支援を行っていく。 • 若年性認知症従事者研修の開催
担当課名	保健予防課 0467-38-3315

4 認知症地域支援推進員研修及び県内配置状況

(1) 研修の目的

認知症の人が住み慣れた地域で生活を継続するためには、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援を行うことが重要である。

各市町村における認知症の人への支援体制を構築していくための担い手となる「認知症地域支援推進員」は、自らの市町村における支援員としての役割や具体的な活動を考え、また、設置する市町村や保健福祉事務所は、「認知症地域支援推進員」に対する支援のあり方を考える機会とする。

令和元年度からは、経験に応じた内容とするため、新任者・現任者に分けて研修を実施している。

(2) 研修内容・プログラム

○新任者研修：令和7年6月27日（金）オンライン開催

時間	内容及び講師
9:30～11:25	○講義 「国の認知症施策の現状と方向性、推進員の位置づけと役割の理解」 （認知症介護研究・研修東京センター） ○「神奈川県認知症施策について」 （県高齢福祉課） ○事例発表 （茅ヶ崎市高齢福祉課、平塚市高齢福祉課）
11:25～12:00	○グループワーク①
13:00～13:30	○認知症ご本人・支援者による講演
13:30～14:00	○「若年性認知症についての理解と支援」 （曽我病院 若年性認知症支援コーディネーター）
14:10～15:40	○グループワーク②
15:50～16:30	○発表
16:30～17:00	○講評 ○事務連絡

○現任者研修：令和8年2月18日（水）オンライン開催

時間	内容及び講師
9:30～11:25	○講義 「国の認知症施策の現状と方向性、推進員の位置づけと役割の理解」 （認知症介護研究・研修東京センター） ○「神奈川県認知症施策について」 （県高齢福祉課） ○事例発表 （綾瀬市地域包括ケア推進課）
11:25～12:00	○グループワーク①
13:00～13:30	○認知症ご本人・支援者による講演
13:30～14:00	○「若年性認知症についての理解と支援」 （久里浜医療センター 若年性認知症支援コーディネーター）
14:10～15:40	○グループワーク②
15:50～16:30	○発表
16:30～17:00	○講評 ○事務連絡

(3) 推進員配置状況（累計）

（年度）

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
配置市町村数	25	22	31	33	33	33	33	33	33	33	33
配置人数	37	66	108	126	132	146	188	211	218	219	242

※配置状況は各年度4月現在の数値

若年性認知症支援コーディネーター

認知症は65歳未満の若い人が発症することもあり、それを「若年性認知症」といいます。若年性認知症支援コーディネーターは、受診のことから就労継続、福祉サービスの利用支援など、患者さんやご家族からのご相談の受付や、支援に携わるネットワークの調整などを行っています。

- **国立病院機構久里浜医療センター**
046-848-1550 (代表)
月～金曜 8:30～17:15 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:横須賀・三浦
- **横浜市立大学附属病院 認知症疾患医療センター**
045-787-2852 (直通)
月～金曜 9:00～17:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:横浜
- **湘南東部総合病院**
0467-83-9111 (代表)
0467-83-9091 (医療社会サービス部)
月～金曜 9:00～17:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:湘南東部、県央
- **川崎市若年性認知症サポートデスク NPO法人 マイWay**
《2024年9月まで》
044-400-7060 (直通)
月～金曜 9:00～16:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:川崎
- **曾我病院 (福祉医療相談室)**
0465-42-1630 (代表)
月～金曜 9:00～16:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:湘南西部、県西
- **川崎幸クリニック (若年性認知症相談窓口)**
《2024年10月から》
044-544-1020 (代表)
月～金曜 8:30～17:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:川崎
- **横浜市総合保健医療センター診療所 (総合相談室)**
045-475-0105 (直通)
月～金曜 9:00～16:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:横浜
- **かわさき記念病院 (若年性認知症相談窓口)**
《2024年10月から》
044-977-3100 (直通)
月～金曜 9:00～16:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:川崎
- **横浜ほうゆう病院 (地域医療連携室 若年相談窓口)**
045-360-8787 (代表)
月～金曜 9:30～15:30 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:横浜
- **北里大学病院 (若年性認知症相談窓口)**
042-778-8658 (直通)
月～金曜 9:30～16:30 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:相模原
- **横浜総合病院 (若年性認知症相談窓口)**
045-903-7106 (直通)
月～金曜 9:00～17:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア:横浜

若年性認知症コールセンター

厚生労働省が認知症介護研究・研修大府センターに委託して、若年性認知症に関するご相談を受け付けています。
0800-100-2707 月～土曜 10:00～15:00、ただし水曜 10:00～19:00 (祝日、年末年始を除く)

認知症のあれこれ



認知症全般に関することや介護の悩みなどを、介護の経験者を中心としたスタッフがご相談に応じます。ご家族等を介護しているケアラーの皆様もお気軽にご相談ください。

かながわ認知症コールセンター

公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部

045-755-7031

月・水曜 10:00～20:00 土曜 10:00～16:00 (年末年始を除く)

よこはま認知症コールセンター

公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部

045-662-7833 (なやみさよなら)

火・木・金曜 10:00～16:00 (年末年始を除く)

川崎市認知症コールセンター「サポートほっと」

NPO法人 川崎市認知症ピアサポートセンター

044-932-0341

月・火・木・金曜及び第1・第3日曜 10:00～16:00 第2・第4木曜 10:00～20:00 (祝日、年末年始を除く)



認知症の人とご家族をみんなで支えるマークです

神奈川県では、認知症施策の普及啓発を推進するため、認知症の人、家族などの意見を踏まえて、独自に「認知症の人と家族を支えるマーク」を作成し、市町村・団体等と協力して、このマークを活用した取組みを行っています。

○全体の形は認知症の頭文字「N」をデフォルメしました。ハートは温かな心づかいを表しています。
○デザインには、記憶が欠けてしまうことで、認知症の方が感じる不安や疎外感を埋める、パズルのピースになれるようにとの想いが込められています。

神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 高齢福祉課
横浜市中区日本大通1 TEL045-210-4846 (直通)



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

令和6年9月作成

お住まいの地域にも
相談窓口があります

地域包括支援センター
市区町村の高齢福祉主管課や保健福祉事務所
保健所までどうぞ。

詳しくは [かながわ認知症ポータルサイト](#) [検索](#)

神奈川県内の認知症疾患医療センター

治療の内容や医療に関する情報などについての「専門医療相談窓口」です。
患者さんご自身、ご家族、医師、保健医療・福祉関係者などを対象に、
専門スタッフが電話や面接によるご相談に応じています。
※受診していなくても、相談することができます。

専門スタッフがお聞きします



ひとりで
悩まず
お電話
ください



<神奈川県 認知症疾患医療センター>

① 東海大学医学部附属病院 総合相談室

伊勢原市下糟屋143
0463-93-1121 (代表)
月～金曜 9:00～15:00
第1・3・5土曜 9:00～12:00
(祝日、年末年始を除く)

② 国立病院機構 久里浜医療センター 医療福祉相談室

横須賀市野比5-3-1
046-848-1550 (代表)
月～金曜 8:30～17:15
(祝日、年末年始を除く)

③ 曾我病院 福祉医療相談室

小田原市曾我岸148
0465-42-1630 (代表)
月～金曜 9:00～16:00
(祝日、年末年始を除く)

④ 湘南東部総合病院 医療社会サービス部

茅ヶ崎市西久保500
0467-83-9111 (代表)
0467-83-9091 (直通)
月～土曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑤ 秦野厚生病院 医療相談室

秦野市南矢名2-12-1
0463-77-1108 (代表)
070-2493-1714 (直通)
月～金曜 8:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)

⑥ 厚木佐藤病院 医療サービス課

厚木市小野759
046-247-1211 (代表)
046-258-6663 (直通)
月・火・木・金・土曜 9:30～16:00
(祝日、年末年始を除く)

⑦ メモリーケアクリニック湘南

平塚市四之宮5-20-4
0463-51-1102 (代表)
月～金曜 9:30～17:00
土曜 9:30～12:30
(祝日、年末年始を除く)

⑧ ~~メンタルホスピタル かまくら山~~

~~鎌倉市鎌倉山1-23-4
0467-32-2550 (代表)
月～金曜 9:00～16:00
(祝日、年末年始を除く)~~

⑨ たなかクリニック

大和市桜森3-7-18
046-200-3322 (代表)
月・火・水・金曜
9:00～12:00、15:00～18:00
木・土曜 9:00～12:00
(祝日、年末年始を除く)

⑩ 藤沢病院 地域医療連携室

藤沢市小塚383
0466-23-2343 (代表)
0466-53-9044 (直通)
月～金曜 9:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)

⑪ えびな脳神経クリニック

海老名市めぐみ町3-1
ViNA GARDENS PERCH 601-12
046-236-2188 (代表)
046-204-8817 (直通)
月～金曜 9:00～18:00
(祝日、年末年始を除く)

<横浜市 認知症疾患医療センター>

⑫ 横浜市立大学附属病院 認知症疾患医療センター

横浜市金沢区福浦3-9
045-787-2852 (直通)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑬ 済生会横浜市東部病院 療養福祉相談室

横浜市鶴見区下末吉3-6-1
045-576-3000 (代表)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑭ 横浜舞岡病院 医療相談室

横浜市戸塚区舞岡町3482
045-822-2169 (直通)
月～土曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑮ 横浜市 総合保健医療センター 診療所 総合相談室

横浜市港北区鳥山町1735
045-475-0103 (直通)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑯ 横浜市立みなと赤十字病院 認知症疾患医療センター

横浜市中区新山下3-12-1
045-628-6761 (直通)
月～金曜 9:00～16:00
(祝日、年末年始を除く)

⑰ 横浜ほうゆう病院 地域医療連携室

横浜市旭区金が谷644-1
045-360-8787 (代表)
月～土曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑱ 横浜総合病院 地域医療総合支援センター

横浜市青葉区鉄町2201-5
045-903-7106 (直通)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑲ 横浜栄共済病院 患者サポートセンター

横浜市栄区桂町132
045-891-2171 (代表)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

⑳ 横浜相原病院 認知症疾患医療センター

横浜市瀬谷区阿久和南2-3-12
045-489-7600 (直通)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

<川崎市 認知症疾患医療センター>

㉑ 川崎市立川崎病院 認知症疾患医療センター

川崎市川崎区新川通12-1
044-233-5521 (代表)
月～金曜 8:30～17:00
(祝日、年末年始を除く)

㉒ 日本医科大学武蔵小杉病院 街ぐるみ認知症相談センター

川崎市中原区小杉町1-383
044-733-2007 (直通)
月～金曜 9:00～16:00
(祝日、年末年始を除く)

㉓ 聖マリアンナ医科大学病院 認知症(老年精神疾患)治療 研究センター

川崎市宮前区菅生2-16-1
044-977-6467 (直通)
月～金曜 9:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)

㉔ かわさき記念病院 認知症疾患医療センター

川崎市宮前区潮見台20-1
044-977-3100 (直通)
月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00
(祝日、年末年始を除く)

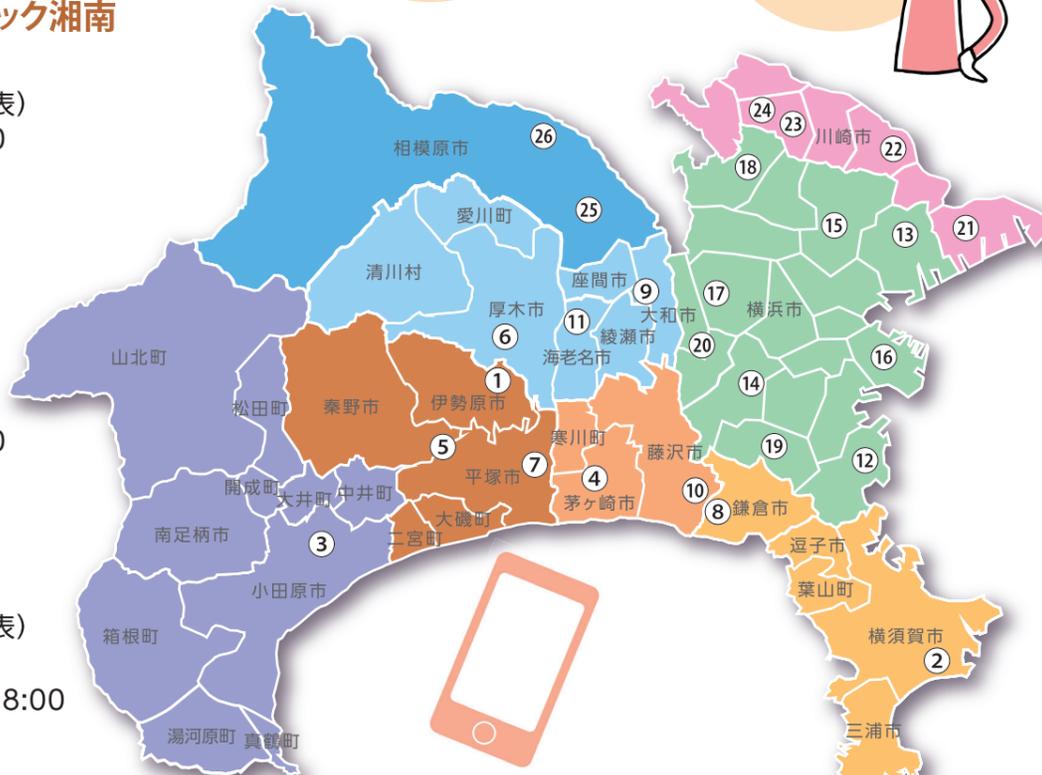
<相模原市 認知症疾患医療センター>

㉕ 北里大学病院 トータルサポートセンター

相模原市南区北里1-15-1
042-778-8229 (直通)
月～金曜 9:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)

㉖ 総合相模更生病院

相模原市中央区小山3429
042-752-1810 (直通)
月～金曜 9:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)



認知症オレンジパートナーネットワークウェブサイト

神奈川県では、認知症サポーター等の個人の支援者、地域の支援団体、認知症カフェ等の活動拠点、企業や行政等が連携し、認知症の方やそのご家族が地域で安心して暮らしていくための支援を行う「認知症オレンジパートナーネットワーク」のウェブサイトを開設しています。

若年性認知症の方は、新たな就労先や様々な活動の場を探すことができます。

こんなことができます！

若年性認知症の方

- ・新たな就労先を探す。
- ・様々な活動の場を探す。

個人の支援者

- ・ボランティア活動に申込み。
- ・県の施策や認知症に関する情報等を受け取る。

地域の支援団体、活動拠点、企業、行政等

- ・若年性認知症の方へ向けた、就労支援、活動場所に係る募集情報を掲載する。
- ・ボランティア活動等の募集情報を掲載する。
- ・県の施策や認知症に関する情報等を受け取る。

オレンジパートナーネットワークウェブサイトを開設しています！



こんなことができます！

若年性認知症の方の就労先を探したい！

ボランティア活動をする場所を探したい！

※若年性認知症の方も申込み可能です。

色々な人と意見交換をしたい！



かながわキタコトと認知症の人と家族を支えるマップ



認知症オレンジパートナーネットワーク ウェブサイト
<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1393/orangepartner/index.html>



神奈川県
認知症の人と
家族を支えるマーク



ともに生きる社会
かながわ憲章
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

一 暮らしは、わたしたちが心をこめて、すべての人の心を大切にします
 一 暮らしは、多様な人々を尊重し、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会を築きます
 一 暮らしは、助けあいの精神を大切にする人々の力で、いかなる困難も乗り越えられます
 一 暮らしは、心の豊かさを実感し、仲間とつながり、希望と夢を共有します

ともに生きる

お問合せ 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課高齢福祉グループ

電話 045-210-4846 (直通)

もしかして

若年性認知症??

記憶に不安を感じたら



若年性認知症とは

「若年性認知症」とは、65歳未満で発症した認知症のことです。

若年性認知症の方は仕事、家事、子育て世代に発症することが多く、現役で働いている場合、若年性認知症を理由に退職してしまうと、経済的に困ってしまいます。しかし、退職前に若年性認知症支援コーディネーターに相談することで、仕事を継続できる可能性があります。

神奈川県の取組

神奈川県では、若年性認知症の人やその家族等の相談に対応し、支援に携わる者同士のネットワークの調整を行う、若年性認知症支援コーディネーターを配置しています。ご本人やご家族等からの若年性認知症に関する困り事や悩み事等の相談に対して、解決に向けた支援をします。

神奈川県内の若年性認知症支援コーディネーター相談先

※受診していなくても、相談することができます。

名称	担当エリア	電話番号
国立病院機構久里浜医療センター	横須賀・三浦	046-848-1550 (代表)
曾我病院 (福祉医療相談室)	湘南西部、県西	0465-42-1630 (代表)
湘南東部総合病院	湘南東部、県央	0467-83-9111 (代表) 0467-83-9091 (医療社会サービス部)
横浜ほうゆう病院 地域医療連携室 若年相談窓口	横浜	045-360-8787 (代表)
横浜市立大学附属病院 認知症疾患医療センター	横浜	045-787-2852 (直通)
横浜市総合保健医療センター 診療所 総合相談室	横浜	045-475-0105 (直通)
横浜総合病院 若年性認知症相談窓口	横浜	045-903-7106 (直通)
川崎幸クリニック 若年性認知症相談窓口	川崎	044-544-1020 (代表)
かわさき記念病院 若年性認知症相談窓口	川崎	044-977-3100 (直通)
北里大学病院 若年性認知症相談窓口	相模原	042-778-8658 (直通)

若年性認知症支援コーディネーターの連絡先等詳細はこちら

神奈川県HP認知症の相談窓口



若年性認知症支援コーディネーターが様々な支援につなげます



雇用期間中（気づき、雇用継続が可能な時）

認知症を疑ったら・・・

まずは若年性認知症支援コーディネーターへ

- 医療機関受診
 - ・認知症サポート医
 - ・かかりつけ医
 - ・認知症疾患医療センター
- 相談窓口
 - ・若年性認知症支援コーディネーター
 - ・認知症コールセンター
 - ・認知症初期集中支援チーム
 - ・地域包括支援センター
 - ・保健福祉事務所、保健所



受診をしていなくても、ご自身で不安を感じた時いつでも気軽に相談できます！



曾我病院
若年性認知症支援
コーディネーター

診断を受けたら・・・

今の仕事を継続したい！

- 就労継続を支援
 - ・障害者手帳
(身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳)



休業中の収入を補填したい！

- 経済的支援
 - ・自立支援医療 ・傷病手当金
 - ・障害年金 ・高額療養費
 - ・高額介護サービス費
 - ・高額医療・高額介護合算療養費制度



- 生活支援 ・日常生活自立支援事業 ・成年後見制度 ・学資支援等

退職後（収入減への対応、次の活躍場所）

元の職場を退職したら・・・

残っている支払いが不安・・・

- ・雇用保険 ・健康保険の加入
- ・年金保険料の免除
- ・住宅ローン ・生命保険



自分に合った仕事を探したい

- ・ハローワーク
- ・地域障害者職業センター
- ・障害者就業・生活支援センター



気軽に通える場所が欲しい

- 活躍できる場所
 - <障害者総合支援>
 - ・就労継続支援A・B型
 - ・行動援護等

- <介護保険サービス>
- ・デイサービス・デイケア
- ・ショートステイ
- ・施設入所



- <その他、インフォーマルサービス>
- ・家族（交流）会
- ・認知症カフェ・サロン

まずは若年性認知症支援コーディネーターに連絡しましょう
表紙の連絡先へ！



各種支援の詳細はこちらから

症状が進行してからでも相談してください。状況に応じて丁寧に支援の提案をします。



湘南東部総合病院
若年性認知症支援
コーディネーター

会社など職場の方へ

次のような異変があるときは、若年性認知症の可能性があります。

- 作業に手間取ったりミスが目立つようになる。
- 指示されたことが理解できなくなる。
- お金の計算や漢字の読み方がわからなくなる。
- 身だしなみに無頓着になる。

一緒に働いている方の変化に気づいたら、相談してください！

職場の方でも若年性認知症支援コーディネーターに相談いただけます。

ご本人のためにも、職場のためにもまずはご連絡を！

久里浜医療センター
若年性認知症支援
コーディネーター



若年性認知症の方を支援している事業所

NPO法人シニアライフセラピー研究所（藤沢市） パン遊房亀吉、ボランティアステーション亀吉等

- 事業形態 就労継続支援B型、就労移行支援、地域密着型通所介護、共生型生活介護
- 事業内容 天然酵母・国産小麦を使い、ふるさと納税サイトのパン部門1位を獲得したパン工房や、できる人ができるときに、できることを行う働く場やボランティア活動の場があります。



●かながわオレンジ大使（認知症本人大使）からメッセージ

かながわオレンジ大使の望月省吾（通称：もっち）です。62歳で若年性認知症（アルツハイマー型）と診断されて、現在79歳（令和5年3月時点）認知症17年のベテランです。毎週木曜日に亀吉でマンドリン演奏のボランティアをしています。好きなマンドリンを演奏して、みなさんに喜んでもらえる。こんな幸せなことはありません。認知症なんて関係ありません。少しでも前を向くことを努力しましょう。私は100歳まで、この活動を続けたいと思います。

NPO法人マイWay（川崎市） マイWayサードプレイス

- 事業形態 就労継続支援B型、地域生活支援事業（日中一時支援）
- 事業内容 若年性認知症の方が、地域とのつながりの中で“はたらかし、役割を持てる場”です。就労継続支援B型に加え、地域生活支援事業（日中一時支援）を開発することで移動支援も可能になりました。認知症とともに生きる方の「サードプレイス＝自宅でも会社でもない、第3の居場所」として、これからも一緒に歩いていきます。



●メンバーさんからの声

認知症になってもわたしはわたし。やりたいことを、これからもやり続けたい。マイWayでの活動は自分を必要としてくれている。一緒に頑張れる仲間がいるって嬉しい。いろいろな人と出会うことで一緒に歩いていきたいな。外へ出ることの緊張感は大切だと思う。仕事を通じて自分たちのできる範囲で社会に貢献している。今充実してます！！

GRASP株式会社（横浜市） GRASP aoba横浜北部、GRASP asahi横浜中西部

- 事業形態 2単位型認知症対応型通所介護
- 事業内容 コンセプトは、どのような容態であっても連続した切れ目のないサービス。
 - ワーク：『シゴト』を通して社会貢献の機会を創出。
 - エンジョイ：『イベント』を通して社会参加の機会を創出。
 - ページック：『クラシ』を通して能力発揮の機会を創出。



●利用者の声

当事者：仲間がいますし、生活のメリハリができて生活リズムが整うので利用しています。

●若年性認知症の人・ご家族のみなさまへのメッセージ

弊社は若年性認知症の人とご家族、地域サポーター、そしてスタッフが、活躍の場、安心・安全の環境、コミュニティ等を共創しています。喜怒哀楽を仲間と共有しながら、愉快で豊かな日々をともに過ごしませんか。『ひとりじゃない』GRASPにはあなたを理解する方が、笑顔で迎えますから。

令和7年度
神奈川県認知症施策活動事例集
～認知症地域支援推進員の活動支援のために～

令和8年3月

編集 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部

高齢福祉課高齢福祉グループ

電話：045-210-4846

